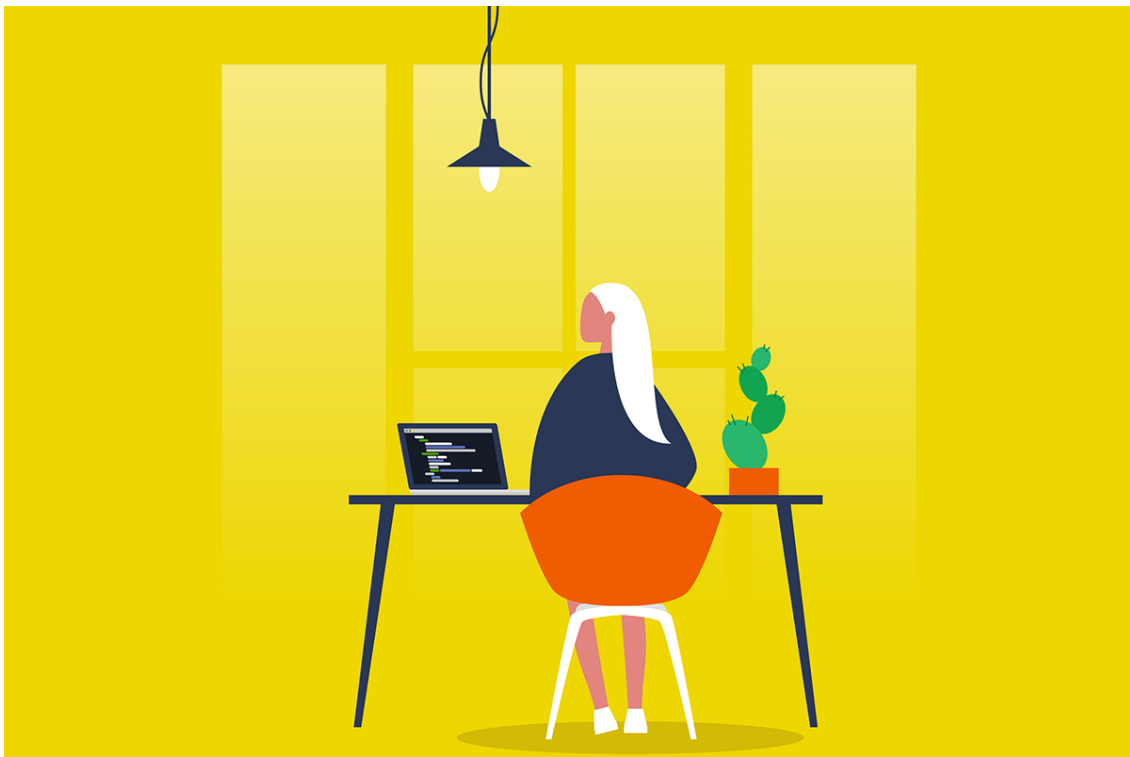


IB の生徒たちへ：学習者として戦い抜くために

2020年4月24日投稿、トピック：Diploma Programme (DP) (ディプロマプログラム), Inspiring alumni (卒業生紹介)

KIS インターナショナルスクールのディプロマプログラム (DP : Diploma Programme) 卒業生であるサロニ・モアさんに、IB の生徒へのアドバイスをお願いしました。「卒業生の声」シリーズへの寄稿は、今回が初めてです。



著：サロニ・モア [in](#)

課題に取り組む手を休めて、ちょっと休憩してみませんか。今はもしかすると、内部評価 (IA : internal assessment) を完成させて、あとは「課題論文」 (EE : extended essay) と「知の理論」 (TOK : theory of knowledge) を片づけようという頃でしょうか。リモート学習や、IB の生徒としての生活が最後に大きく様変わりしたことに、飽き飽きしている人もいるかもしれません。画面ばかり見つめていると頭が疲れるものです。DP の生徒として楽しく過ごしていた、わずか数か月前の日常に戻りたいと思っていることでしょう。

IB の学習が容易でないことは疑いのない事実です。特に最終学年は、通常の下でさえ一筋縄ではいきません。大変だと思っているのは、あなただけではありません。私たち全員が経験してきました。私も去年は、何度も心が折れそうになりました。私の経験が全員

にあてはまるとは思いませんが、あれから1年たった今、DPから何を学んだかを振り返ってみたいと思います。

「IBで戦っている皆さん、頑張り通してください。その努力は絶対に報われます。」私にとって、DPの1年次は本当に楽しい一年でした。学ぶことがたくさんあるということが、嬉しかったのです。明確な学習目標によって必要な勉強量が決められていて、さまざまなミームにも共感できたし、以前はそれほど感じなかった生徒同士の仲間意識も感じられるようになりました。自分の信念に疑問を投げかけることを学び、ありとあらゆるものが知識の構成要素なのだと考えるようになりました。ところが2年次に入ると、突如として課題の期日が怒涛のように襲いかかってきました。

3月になっても、まだ学習すべき内容がたくさんあり、しかも締め切り間際の内部評価やTOKエッセイの手直しもしなければなりません。知識が頭に入らなくて（「化学」の試験問題2では、すべての問題に「水素結合」と答えることにしたほどでした）、志望大学の条件付き入学の要件を満たせるとは思えず、IBの価値すら疑うようになりました。エネルギーを一滴残らず絞り取られるような要求度の高いカリキュラムを、なぜ修了しなければならないのか、とっていました。

私が今これを書いているのは、IBの要求度の高さには理由があること、そして必ず乗り越えられるということ、皆さんにお伝えしたいからです。去年、天地万物とIBに疑問を投げかけていた時の私には、「**格段に見栄えが良い経歴を手に入れる**」ということ以外に、IBの目的が見えていませんでした。（これは本当にそうで、ほとんどの大学がIBの卒業生を大歓迎してくれ、高校時代にとった授業を単位として認めてくれるところもあるほどです）。当時の私には、それで十分でした。でも大学生になった今、IBが（もの覚えの悪い私の脳に）刷り込んでくれた、すべてのスキルの価値を理解できるようになりました。ちなみに、どのスキルも水素結合とはまったく関係がありませんでした。

好きなことをやり続けましょう

IBに限らず、人生のどんな難題においても（私の場合医学部ですが...）、合格点を取るとは重要ですが、自分を犠牲にしてまですることではありません。楽器を弾くけど、ずっと忙しくて練習どころじゃなかったという人は、思いきり演奏してみてください。もうかれこれ何時間も机に向かっているという人は、表へ出て散歩でもしてきてください。スポーツをしたり、チョコレートを食べたり、両親に抱きついたり、兄弟姉妹をおちょくったり、本を読んだりしてみてください。

IBだけが人生ではありません。IBに人生に**捧げる義務**はどこにもありません。（余談ですが、「**創造性・活動・奉仕**」（CAS : creativity, activity, service）のすばらしい点はそこにあ

ります。生産的なやり方で現実逃避して、いかに生産的に現実逃避したかについての振り返りを1つや2つ書けばよいのです)。

あらゆることに疑問をもつ

「IBは、物事を額面どおりに受け止めず、深く掘り下げて、なぜそうなのかを考えることを教えてください」

IBが好きな言葉をひとつ挙げるなら、「批判的思考」です。IBは、物事を額面どおりに受け止めず、深く掘り下げて、なぜそうなのかを考えることを教えてください。自分という人間は、卒業後に次の段階へと自動的に送られるクローンではないという確信をもてるようになります。

レポートは苦痛、でも大学で泣かずに済むように今学んでおきましょう。

私は医学部の学生ですが、今年は4本の論文を書かなければなりません。書いた論文には剽窃チェックが課され、参照や引用が適切かどうかを確認され、もちろん、論文の内容自体が精査されます。IB出身の私のように、最初の草稿の提出日直前に4000語を一気に書き上げた経験をもつ学生はほとんどいません。そしてこの経験が、非常に大きな助けになっています。ですから、今皆さんが苦しみながら取り組んでいるEEやエッセイ、そして内部評価は、あとで必ず役に立ちます。

さまざまな選択科目を楽しむ

6科目を履修し、しかもTOKまで受講しなければならないというのは、相当な学習量です。でも、複数の学問領域に触れられるというのは、良いことでもあります。一般知識が10倍に増え、2か国語を(ある程度)操れるようになり、科学の知識を実際の生活に応用できるようになります。環境であれ、バンデューラのボボ人形実験であれ、会話の「引き出し」が増えます。そして、今の世界で間違いなく必要とされている、バランス感覚のある人間になることができます。

IBのスコアがすべてじゃない

もう卒業したからそんなこと簡単に言えるんだ、と思うかもしれませんがね。でも、これは事実です。いまだかつて、誰かにIBのスコアを聞かれたことはありません。信じられないかもしれませんが、IBというものを聞いたことがない人すらいるのです。

ですから、IBで戦っている皆さん、頑張り通してください。その努力は絶対に報われます。



サロニ・モア：エジンバラ大学医学部 1 年生。病状や医薬品の暗記に追われていない時は、日々の厄介ごとを忘れるため、読書に没頭したり、公園内をジョギングしたりしている。